

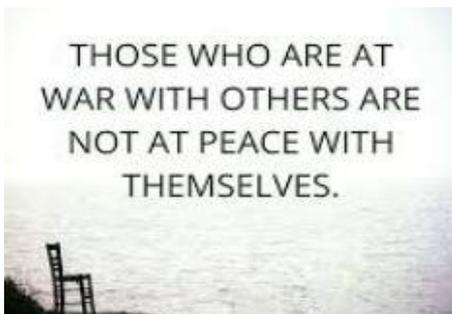
「平和」というお題目の意味するのは何か？

戦争は、西洋が反対されずに世界を支配できなくなったとき起こる

【訳者注】アンドレ・ヴルチェックは、私の尊敬する、また尊敬されるべき、ICHの常連投稿者の一人である。彼は一貫して、非白人の立場から、世界を支配しながら、それに気づかないでいる白人（西洋人）世界を、的確に糾弾する稀有な知識人である。この西洋人とその文化が、自分の犯罪的立場に気づかず——あるいはそのふりをし——西側世界（日本人を含めて）もこれを許容しているという事実が、問題の根本に横たわっている。先日、我々の論じた「アメリカ例外思想」は、これを縮小し、アメリカ一国に特化したものといってよい。今、ヴルチェックの観点を取らなければ、地球的危機の本質は全く見えてこない。「平和」とか「戦争」と言われているものを、裏返してみることなしに、世界を論ずることもできず、いわんや問題解決の方向も見えてこないであろう。

Andre Vltchek, Information Clearing House

June 2, 2018



他者と戦争している者は、自らとも平和を保てない

西洋は、よく自分のことを「真に世界の平和を愛する者たち」と呼んでいる。本当か？ それはあらゆる所から聞こえてくる——ヨーロッパから北米まで、それからオーストラリアまで行き、またヨーロッパへ戻ってくる。平和！ 平和！ 平和！

それは何も考えずに言うお題目、キャッチフレーズ、資金や同情や支援目当てのレシピになってしまった。「平和」と言いさえすれば、まず間違いない。それは、あなたが、同情することができ、理性ある人間であることを意味する。

毎年、“平和会議”が至る所で行われ、そこでは平和が崇拜され、要求さえされる。私は、デンマーク西海岸で行われた、そういうものの一つに、最近、基調演説者として出席した。

もし、私のような、重い責任を持つ戦争専門記者が、そういう場所に参加するならば、その人はショックを受ける。通常そこで議論されるのは、表面的な、耳あたりのよい話題である。

よくてもそれは、「資本主義はいかに悪いか」とか「すべては石油から来ている」といった話題だ。西洋の民族抹殺文化については、何も語られない。事実上すべての西洋人がそこから利益を得ている、連続した、何世紀も行われている略奪についても、語られない。

最悪の場合、世界はどんなに悪いか、「人間みんな同じだ」という決まり文句である。またそこには、ますます奇怪で、事実を知らない、ロシアや中国に対する、決まった悪感情の爆発があり、それはしばしば、西側のネオコンによって、「脅威」とか「ライバル強国」とか呼ばれている。

こういう集会の参加者たちは、「平和はよいこと」、「戦争は悪いこと」だと合意している。これにはスタンディング・オベーションが伴い、互いに肩をたたき合う。心からの涙が伴うことはまれである。

しかし、こうした態度の背後の理由が問われることは、めったにない。結局、戦争を求める者はいないのだ。誰が、暴力や重い障害や死を望むだろうか？ 誰が、潰され黒焦げになった都市や、親を亡くし泣いている子供を、見たいと思うだろうか？ すべては非常に簡単で、非常に理屈が通っているように見える。

しかし、ではなぜ、そのような「平和演説」が、荒廃した、いまだに事実上、植民地のアフリカや中東諸国から、あふれ出るのを聞くことが、あまりないのだろうか？ 彼らが最も苦しんでいる者ではないのか？ 彼らこそ、平和を夢見ているはずではないのか？ それとも、ひょっとしたら、我々すべてが、肝心のポイントを見落としているのだろうか？

私の友人で、偉大なインドの作家・思想家 Arundhati Roy は、2001年、西側の「テロとの戦い」に反応して、こう書いた：——「この空襲を報告したとき、ジョージ・ブッシュ大統領は言った、〈我々は平和を愛する国民だ。〉また、アメリカのお気に入りの大使トニー・ブレアも全く同じことを言った。そこから、こういうことがわかる——豚は馬であり、女は男であり、戦争は平和である。」

西洋人の口から出る“平和”は、本当に平和で、“戦争”は本当に戦争なのか？

あの「自由で民主主義の西洋」の人々は、まだ、こんな質問をすることを許されているのだろうか？ それとも、戦争と平和の感覚は、問うことを許されないドグマの一部で、西洋文化と法律の両方によって、「保護」されているのだろうか？

このような質問を、もし西洋で問いかけるなら、ほとんど「暴力的」な、したがって「不法」の響きをもつ。それは、グアンタナモ収容所行きになるか、秘密の CIA 刑務所に迎えらるであろう。数週前、私は、ケニアのナイロビのベネズエラ大使館で、東アフリカの左翼野党の若い人々と直接、話した。しかり、彼らはいきり立っていた。彼らは憤懣に耐えず、決意し準備していた。

アフリカ大陸をあまり知らない人のために言うておくと、ケニアという国は、何十年もの間、英、米、そしてイスラエルにとってさえ、東アフリカの帝国主義前哨地であり、それは冷戦中、西ドイツが演じたのと同じ役割を演じていた。すなわち、ぜいたく品とサービスに満ち溢れた、ウィンドウショッピング天国だった。過去においてケニアは、ニエレレの指導の下に、タンザニアの社会主義実験を、凌ぐものと考えられていた。

が今日、ケニア人のほぼ 60%はスラム街に生活し、アフリカで最も過酷な生活の一部がここにある。これらの「セトルメント=部落」でも Mathare や Kibera のような地域は、少なくとも 100 万の人々に、最も劣悪な、悲惨な条件の住宅を提供している。4 年前、南米ネットワーク TeleSUR のために、これらのスラム街で、ドキュメンタリー映画を製作していたとき、私はこう書いた：——

「…公的には、ケニアには平和がある。数十年間、ケニアは、西洋のクライアント国家として機能し、外国の軍事基地を受け入れて、野蛮なマーケット体制を実現していた。何百万ドルものカネがここでつくられた。しかし、地球上のほとんど、いかなる所にも、ここほど残忍な、悲惨なありさまを示す場所はない。」

それより 2 年前、キスム市とウガンダ国境の、ツナミの映画を撮っていたとき、私は、村全体が幽霊のように、空っぽで立っているのを見た。住民は死んで消滅していた——エイズと飢えによって。しかしそれでも、そこは平和だと呼ばれた。

ソレイユ市の悪名高いスラム街で、絶望的に貧しく、病気のハイチの人々に対して、米軍医療団が青空の下で活動していたときも、そこは平和だった。私は一人の女性を見かけ写真を撮った。彼女は、間に合わせのテーブルに寝かされ、その土地の麻酔だけを用いて腫瘍を取

り除いたところだった。私は北米の医者に訊ねた――なぜこうなのか、と。私は、ここから2分の距離に、最高級の軍事病院があるのを知っていた。

「ここは本物の野戦病院に、可能な限り近い状態なのです」と、一人の医者が正直に言った。「我々にとって、これは素晴らしい練習の場なのです。」

手術が終わると、この女性は起き上がり、怖がる夫に支えられて、バス乗り場の方へ歩いていった。

そうだ、これもすべて、公的には平和な場所なのだ。

私は、世界のほとんどすべての荒廃した場所で、仕事をしながら、上に描いたより遙かにもっとひどい情景を目撃している。たぶん私は見過ぎたであろう――犠牲者の手足をもぎ取るすべての**“平和”**を、燃える小屋と叫ぶ女たちの平和を、あるいは十台に達する前に、悲惨と飢えで死んでいく子供たちの平和を。

もしあなたが、私と同じ仕事をすれば、あなたは医者のようになるだろう。あなたは、これらすべての恐怖と苦しみに耐えるよりほかはない。なぜなら、あなたは現実を暴き、世界に恥をかかせるために、ここにいるのだからだ。あなたには、死んで腐る権利はない。倒れて叫ぶ権利もない。

しかしあなたに我慢のできないものがある――それは偽善だ。偽善は“銃弾を通さない”。それは、正しい論証によっても、論理によっても、例証によっても、光を当てることはできない。西洋の偽善は、しばしば無知だが、たいていは自己奉仕的なものでしかない。

そこで、ヨーロッパと北アメリカ人にとって、本当の平和とは何を意味するのか？ 答えは単純である：――それは、可能な限り少数の西洋人だけが、殺されたり傷ついたりする状態のことである。それは、貧しい、略奪された、植民地化された国々から流れる資源が、滞りなく、圧倒的に、ヨーロッパと北アメリカに流入する状態のことである。

そのような平和の代価は？ 世界のそのような段取りの結果、どれだけのアフリカ人、ラテンアメリカ人、またアジア人が死ぬかは、全くどうでもよいことである。

平和とは、その過程で、非白人が何千万人消え去ろうと関係なく、西洋のビジネス利益が危険にさらされない時のことである。

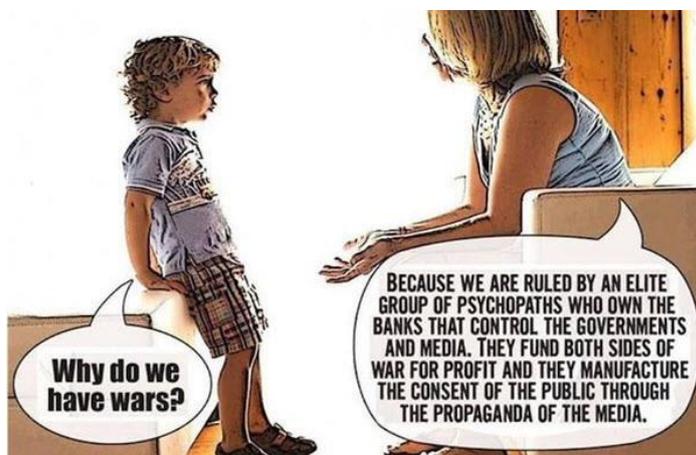
平和とは、西洋が、反対されることなく、政治的に、経済的に、イデオロギー的に、「文化的」に世界を支配できる時のことである。

「戦争」とは、反乱が起こった時のこと、略奪された国の人々が、「ノー！」と叫ぶ時のことである。それは、彼らが凌辱され、強奪され、教え込まれ、そして殺されるのを、突然、拒否する時のことだ。

このようなシナリオが起こるとき、西洋で「平和を回復するために」直ちに起こることは、人民の保護しようとする国家の政府を、倒すことである。学校や病院を爆撃し、上水道や電気の供給を破壊し、何百万もの人々を、全面的な悲惨と苦悶の中に投げ込むことである。

それは西洋が、現在、北朝鮮、キューバ、ベネズエラ、イランなどにやっていることで、それは今のところは、制裁や、外から供給する恐ろしい“反政府軍”による、痛めつけにとどまっている。西洋の辞書では、「平和」は「屈服」の同義語である。全面的な無条件屈服のことだ。それ以外の何事も戦争であり、潜在的に戦争につながる。

アフリカを含めて、抑圧され、徹底破壊された国々にとっては、レジスタンスを呼びかけることは、少なくとも西洋の辞書では、「暴力を呼びかけること」したがって、不法行為である。それは、第2次大戦中、ナチス・ドイツ軍によって占領された国々のレジスタンス呼びかけが、「不法」だったのと同じである。したがって、この西洋のやり方と精神状態を「ファンダメンタリスト」（原理的無謬思想）で徹底的侵略と呼ぶのは、論理的に当然である。



「なぜ戦争するの？」

「それはね、私たちが、サイコパスたちのエリート集団に支配されていて、その人たちは、多く

の政府とメディアを支配する銀行の所有者だからなのよ。彼らは利益のために、戦争の両サイドを資金援助し、またメディアのプロパガンダを通じて、大衆の合意を創り出しているのよ。」

——以上